

|||||
変わったシゴト, 変わったジブン「ロータ!」幻想郷版 1

ROTA!

R-18!!

不定期 土・日 有料発行

ADULT ONLY
成人向版

特集1: はじめてさんも、ベテランも!

派遣SPECIAL

特集2: エリアに注目!

人里・妖怪の山

東風谷早苗、
バイトがんばります!!

R18
ADULT ONLY

A 人里

B 妖怪

C 紅魔

D 白

E 遠亭

F 地霊

G

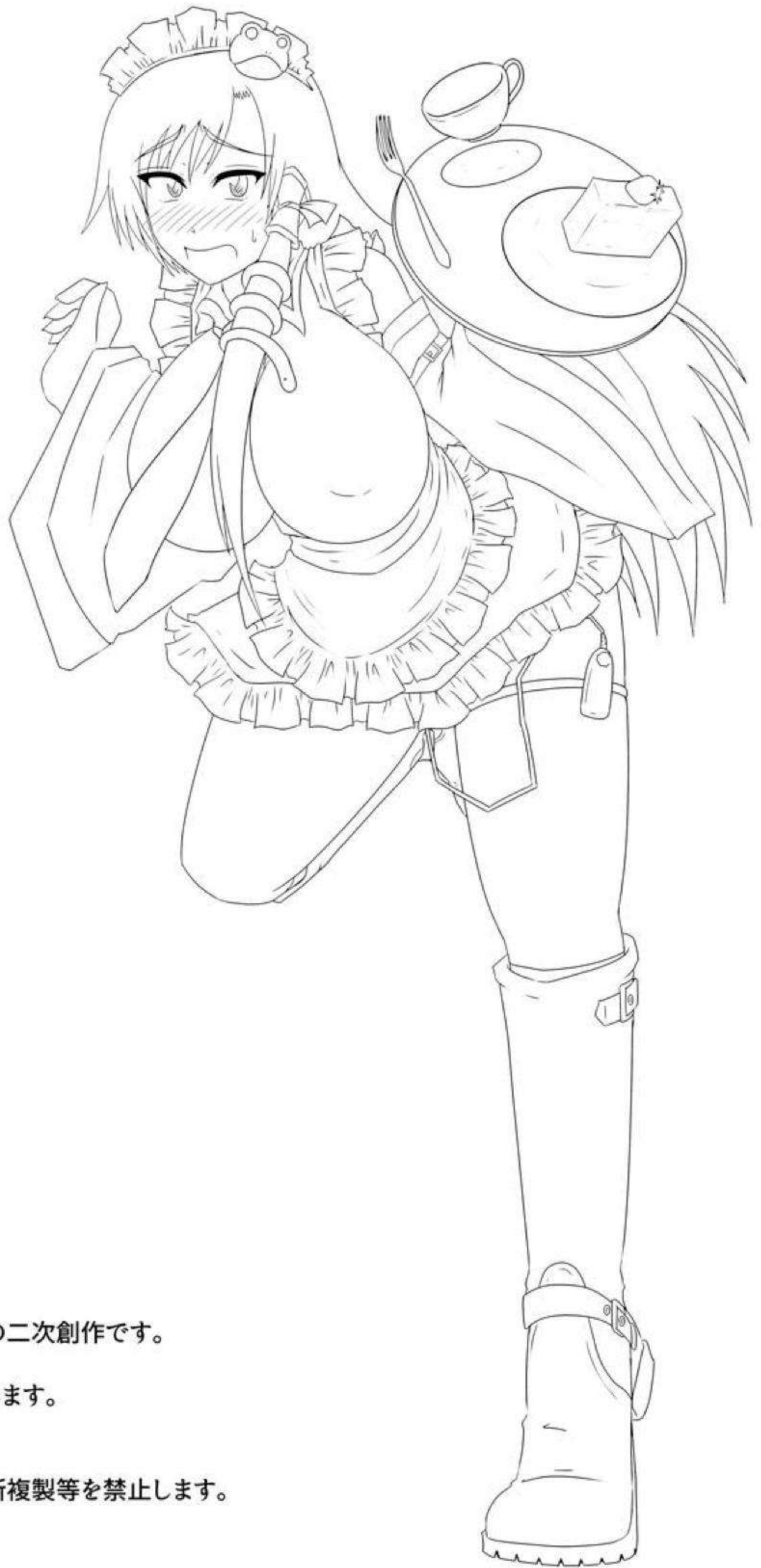
X 有頂天

Y 月

Z 霊魔殿



東風谷早苗、
バイトがんばります!!



この作品は東方Projectの二次創作です。

18歳未満の閲覧を禁止します。

本誌の一部または全ての
無断転載・無断使用・無断複製等を禁止します。

だから私は
過去の自己批判も含めて
言っているのです!!

人里に
夢と安全を

(十返木)

幻想郷
未来の町づくり

人里の自立と
自主独立の精神を
共通の思想としてですね

そういえば昔
「ゲバルト・ローザ」なんて
方々がいらしたんですケド……

その方たちは頭に
赤い洗面器を

いやあ……

いつ見ても
早苗ちゃんは
かわいいねえ

そうデブ
ねえ

オッパイ
また大きく
なったんじゃない?

さすがデブ!
お目が高い
デブねえ!!

ゆっ♡
ゆっ♡

どっぴん!!



これ以上
店の前を貸せない?!

それはどういうコト
ですか店主さん!?

ちゃんと説明
してください!!

まあまあまあ
落ち着いて
早苗ちゃん

びーけあふる
びーけあふる

はるんっ♡

ガッ

何もただ
追い出そうって
ワケじゃない
ちよつと使用料を
払ってもらおう
かなって話

永遠亭
医薬品

使用料…
ですか?

たち

お金に困ってるんだったら
いいアルバイト紹介するよ?

まあ信仰だ革命だって
言うのもいいケド…

ちよつとはこの幻想郷に
慣れるために働いてみるのも
イイんじゃないかねえ?

なんだか
メンドくさいコトに
なってきたなあ……

うーん…

使用料に……

アルバイトで
労働経験を
勧められたと……

カ
文丸くんの
求人案内。
太陽の
5月号

そうなんです……

ほかに場所を提供
してくれる方は
まだ見つかっていない
ですし……

いいんじゃない
ですか？

ちよつとだけ
経験してみるのも

ココに来て
日も浅い
ですし……

この機会に
社会勉強をしてみるのも
いいかもですよ

その間に
店主さんとは別の
スポンサーを探しても
いいと思いますし……

そうですね……

うーむ



よし！

バッチリ
キマってますね！

どうせやるなら
トコトンやります！

面接は最高の印象で
採用してもらいますよ！！

リクルースーツ！！

ココが紹介された
飲食店ですね！

CAFE

ある界隈では有名な
喫茶店

やあ
はじめまして
東風谷早苗さん

私がこの店の
オーナーです

さっそくですが
面接を始めさせて
いただきますよ？



履歴書を見せて
もらいましたけど…

なかなかの経歴
ですねえ！

ありがとう
ございます！

妖怪退治
か

キラッ

面接時はどんな場合でも
スーツで受けると
印象が良くなるんですよ

ムム♡

ムム♡



私にはいろいろと
やらなければならぬ
使命があります！

そのためにもここで
精一杯働かせて
頂きますので
どうかよろしく
お願いいたします!!

ムム♡

ムム♡



ニヤッ

ほほーう
それは大変そうですねえ

それでは採用と
致しますので
明日からしっかり
よろしくお願
いしますよ？

東風谷早苗さん

早苗さんが
あの「喫茶店」で
バイトしている
らしいぜ!

おい
聞いたか?

マジかデブウ?!

ああ

しかもすげえ
サービスがいい
らしいぜえ

決まりデブ!

今日の昼メシは
そこにするデブ!!

オイオイ昼メシは
さっき食っただろ?

おっ

ここだ

さっそく
入るデブ!

おおっ?!

デブ!

こんにちはー

ひょこっ

2名様デブよー

カラン
カラン

ガチャツ







前と後ろに挿れられて
そんなに早く
動けるワケないじゃ
ないですか!!

ほらー
早く運んでよ
早苗さん

は

は

は

は

は

う...

ムム

グ

ググググ

ググググ

ムム

あ

は

SAE

カ

カ

ニヤ



うっ…
うい…

早苗さん
転んだ拍子に
イッったのかね？

ああ…！

早苗ちゃんの
オムライスが…

イッっちゃうに
決まっています…

ボクの股間に
アタックデブ…

なんでよあ…

ぐちゃめ…
びび…

ガク♡

早苗さん
ボク…

お客様に
粗相したら…

わ…
わかってます…！

うひ…
？！
クッ

早苗ちゃん

きれいに
してデブよ！

ぬん…

なんなのよあ
このデカさ…

お客様に粗相を
したら――

トクベツサービスを
いっぱいしなくちゃ
いけないだなんて……

ちゅっ
♡

おお

早苗ちゃんが
ボクのモノを
しゃぶってるデブ!

んむっ
♡

はづかしいケド

すっごく「ロウリン」
しちゃう……♡

はむっ
♡

んむっ
♡

んちゅっ
♡

すっ
♡

はむっ
♡

♡♡♡

♡♡♡

ね
ちゅっ
♡

ぴ
ちゅっ
♡

びゅ
グググググ

びゅ

はみゅっ
♡♡♡

おひょ
♡

ぬろお
♡♡♡

ちゅ
ううう

気持ち
いいデブうっ♡

ず
ぞぞぞ



えっ…早苗ちゃん♡

はぁい？

ぴちゅ♡

ググググ

そろそろ
イクデブう♡

イクって……



もったいない♡

んぐ♡

んぐ♡

早苗ちゃんが
ボクのセーシを♡

びゅ♡
びゅ♡
びゅ♡



はう♡

んぐ？！

びゅ♡



はぁ♡♡♡

トロお

この味♡

あん♡

トロ♡

ん♡

ちよつと
好きかも♡

もっとサービス
しちゃおうと♡

ぬぎっ

ばいーんっ

男の人って…

こういうの
好きなんですよね♡

そ…
そうデブ♡

んしょ♡

んっ♡

んしょ♡

んっ♡

むにっ♡

むにっ♡

むにっ♡

むにっ♡



どうですか？
気持ち
いいですか？

ちゅっ♡

ちゅっ♡

いいデブう♡
イ…イクデブよ♡

たっ♡
♡

ずっ♡
♡

たっ♡
♡



あま♡
♡

うんあ♡
あっ♡

あひょ♡
♡

ぽっ♡
♡

ぽっ♡
♡



ふい♡

早苗ちゃん
気持ちよかったデブ
ありがとうデブ

あっ…

ありがとう
ございますう♡

は

は

ほら早苗さん
お客様がお帰りだ
会計をお願いね

あっ…♡

ありがとうって
言われるの好き♡

やーっ

いかがでしたか？

大変美味で
ござったデブ♡

オレ何も食ってないし
シテもないんだが…

満足♡

びわ♡

グイ

びしょ♡

びしょ♡



それは
何よりです！

また来るデブよ

おっと
おトクなスタンプカードが
ありますのでぜひまた
いらしてくださいませ！

はあ♡
はあ♡

お会計…

ああ♡だめ♡
腰が抜けて…♡

……このアルバイト

クセになっちやいそう♡



はぁ♡

お...

お会計は
オムライスと
カレーライスで
1600円です

3つスタンプ
押しますね♡
1つ500円分です♡

はぁ♡

10コ貯まったら
トクベツサービス
させていただきます♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ひゅっ♡♡♡

はぁ♡

またの
ご来店—

お待ちして
ます♡

END?

レジを終えて、2人が出て行った後。
堰を切ったようにイキまくる早苗さん。

カラーVer.はPixivに上げております。(id=56616695)





取らないとワシに
大好きなサービス
できないぞ?



取っちゃうん
ですかあ?♡♡

よし
じゃあまずは
おマタのモノを
取り出すかな



ほーら
取れた!

ちゅぽん♡



ああ…♡
店主さん♡

この幻想郷で一番
すけべな早苗のおま○こに
店主さんの硬いおち○ちん
挿ってるうう♡♡♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

あ♡

は♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ああ♡ だめえ♡♡
アタマ真っ白になっちやう♡

ちゅ♡

す♡す♡す♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

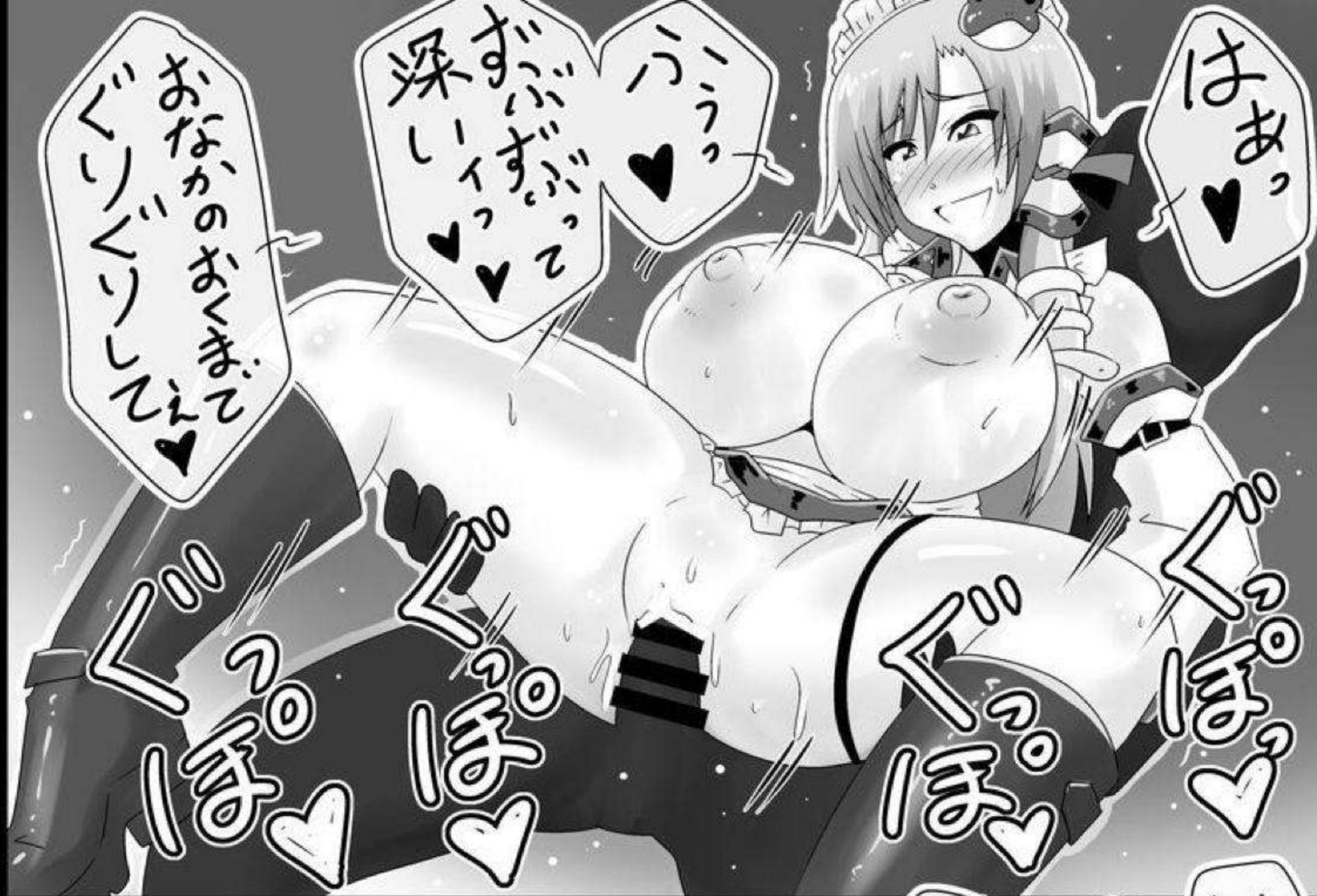
ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡







気持ち♡
うっ♡

ひ♡
うっ♡

はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡

ひあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡

おち♡
おち♡
おち♡

はあ♡

ひあ♡
はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡

はあ♡
はあ♡
はあ♡



はっ?!
おいしいだめ♡
いまはおいしい...

ぬん

じゅ♡

おいしいのなか
なかあ♡

おちのちん
わたしのせえ♡

あかちゃん
ごきそえ♡

いから♡

いさ♡

はっ♡

くたひ♡

モテ♡
気持ち♡

じゅ♡

じゅ♡

じゅ♡

じゅ♡

が♡

びん♡

ひゃあ♡

す♡





よおし

じゃあ早苗ちゃん
動画を撮るよ

笑顔で
ピースして！

はあ♡

はあい♡

こころです
かあ？

うん

いいよお

はあ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

トキ♡

はあ♡

はあ♡

愛しの店主さんの
お願いで私早苗は

このイヤらしい身体で
精一杯幻想郷に
尽くしちゃいます！

みなさんお店はもちろん
道ですれ違ったら
ヨロシクお願いしますね♡

HAPPY END



その後の早苗さん。

普段もローターを挿れて、普段通りに店主のお店(薬屋さん)の前で演説。
観衆や店主の視線を感じ、激しくイッてしまいます。



記念撮影
ですね♡

早苗ちゃんの生理が
来なくなった記念だよ
どうかね？私の店でも
働かないかね？

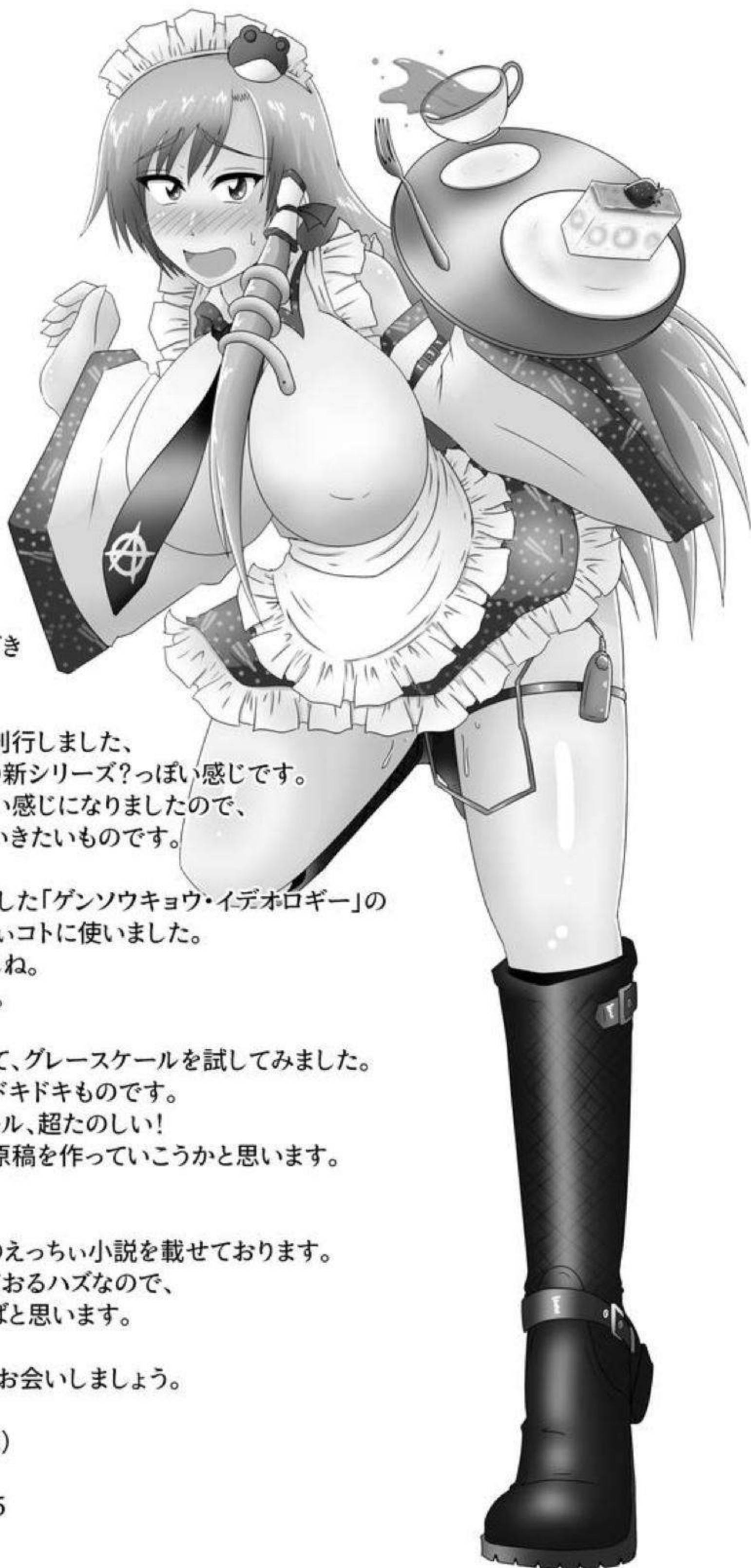
嬉しいです♡
これで一日中
かわいがって
貰えます♡

店主様
専用♡

ピ
ー
ス
♪

演説の後は、薬屋の店内で店主さんとラブラブエッチ。

エッチの後で、さらに薬屋でも働くことになって、ご満悦の早苗さん。
アルバイトをすることで、素敵に変わった早苗さんの今後の活躍が期待されます。



■あとかき

ここまでお付き合いいただき
ありがとうございました。

2014年の夏コミから6冊刊行しました、
R-18アルバイトシリーズの新シリーズ?っぽい感じです。
前作は全部続きモノっぽい感じになりましたので、
今作は1話完結でやっていきたいものです。

今回は名華祭で発行しました「ゲンソウキョウ・イデオロギー」の
早苗さんをそのままえっちいコトに使いました。
辛酸舐めさせられましたしね。
次回は、誰にしようかしら。

あと、今回トーンではなくて、グレースケールを試してみました。
うまく出来上がってるか、ドキドキものです。
しかし…、ぐ、グレースケール、超たのしい!
今後はグレースケールで原稿を作っていこうかと思っています。

さて、残りページは、
相方・柳筥(やないばこ)のえっちい小説を載せております。
若干、「痛い」内容となっておりますハズなので、
心して読んでいただければと思います。

では、またいつかどこかでお会いしましょう。

たすろ主任(たすろ くずは)
PixivID: 8194034
TwitterID: @tasuro115

ワヤフリ

柳宮

この幻想郷に聳える妖怪の山に住む白狼天狗。

犬走権はその一人であった。山内の治安護持を担う検史と呼ばれる法の番人として、日々の課業を黙々とこなしながら、暇を見つけては仲間
の天狗と大将棋に没頭する。そのような日々を送っていた。

関わるのは同族である白狼天狗を始めとして、この妖怪の山に生活を置く妖怪たちが殆どで、僅かながらの人間と古き神々が端数に数えられるものであった。それを物足りないものと思うのか、十分であるとするのか、多くの天狗は後者であった。

特に白狼天狗はこの山の外に興味を向けることは少ない。己たちの縄張りを守り固めることをどこか本懐としており、そう広いわけでもな

いこの幻想郷にあつて勢力を広げる事には消極的であった。

何しろ天狗に拮抗するような者たちが特異な裁定法の下にひしめいているのである。下手なことをすれば天狗たち自身を滅ぼしかねない危うい天秤の拮抗があつた。だからこそ、天狗たちは妖怪の山に蝸牛のように首を引き込んで、充足の日々を送っていたのである。

権も周囲と同じようにそれで十分だと思つていた。満ち足りることを拒絶するのは強欲である、そう考えていたのである。だからこそ、鴉天狗である射命丸文のようにその黒羽を山外へ羽ばたかせるような者に対しては怪訝な顔をしており、割合好感を持っていた姫海棠はたてを唆して山外へ連れ出そうとしていることに対しては、鬱屈したものを腹の底に抱えるのであつた。

そうであっても、はたてが語る山外の様子は
どうにも魅力的に思えるもので、ふとした切っ

掛けでもあれば足を向けるのも悪くないと思うようになつていたのである。

そんな折の出来事であつた。白狼天狗たちが守護しているこの妖怪の山に子細不明な心霊の類いが現れたのである。大天狗よりその探索を命じられた権は山内で一人の死神と顔を合わせる事となる。

小野塚小町。その死神はそのような名であつた。この幻想郷から離れていく者たちを送るのが生業であり、フラリフラリと彼方此方を歩き回つては細々とした物事に首を突き入れることもあるのだと言う。是非曲直庁に所属しながら、自由気儘に折り合いをつけている小町の姿に権はどこか惹かれるものがあつた。

剣術体術を一通りに修め白狼天狗のなかでも中の上程度と自信のある己の技であっても及ばない武芸を易々と繰り広げるその姿に見惚れ、飄々とした物腰と死神としての矜持が織り交ぜられたその性に興味を覚えたのであつた。

山の一件で受けた助力への礼を兼ねて柁はヒタヒタと中有の道を歩いていった。妖怪の山より携えてきた酒にあう肴は何かないと死者たちが商う出店で二、三ほど見繕うと小町が居るであらう三途の河へ歩を進めるのであった。

「何だってまあ、こんなところまで」

そんな言葉で小町は柁を出迎えた。こんなところ、と小町が言うのも無理はない。悠々と水を湛えた大河と苔を纏った剣山のような奇岩が、濃淡のある霧の合間から姿を見せる風景に柁はクラリクラリと目眩を覚えていた。話には聞いていたが、これほどまでに異質なところであるとは想像の範疇を超えていた。普段彼女が目にするのは四季の移り変わりを見せる山である。その色彩豊かなものに慣れていると、この三途の河というのは幻想郷ではない処なのだと思わされるのであった。

「先日のお礼に伺いました」

手に携えた酒徳利と風呂敷包みを見せる。この死神の好みというのがサッパリ分らないところではあったが、天狗の間でも一等評判である酒を選んだのであった。

「それじゃあ御馳走になろうか」

態々ここまで足を伸ばして来た者を追い返すのもどうかだろうかとその厚意を受けることにしたのである。とは言え、この殺風景な河原で酒を広げるのも無粋だと感じた小町は手招きをして柁を愛用の小舟へと誘うのであった。それは長さ四〇尺に幅が五尺と猪牙舟を一回りほど大きくしたもので、二人程度なら悠々と腰を下ろすことが出来るものであった。

「大丈夫さ。冥土に送るにはあんたはまだまだ若い。それに何と言っても態々ここまで来るような物好きな天狗だ。私好みだ」

「死神にそう言われるのは有り難いものですね」

ギィギィと小町が櫓を操りながら霧の中へと舟を進めていく。水の流れる音も風の吹く音も

微かなものへと変わり、ここが何処なのか分からなくなっていく。柁の五感の全てが静寂で覆い尽くされるような錯覚を覚えるが、そうはさせまいと小町が饒舌な語り口で様々な話をするのである。地獄の沙汰の彼や此やに始まり、渡らせた死者の話、そして上役である四季映姫への愚痴。まるで講談か漫談を本業にしているのではないかと思わせるような見事な話術であった。

「さ、ここらでどうだい。真っ白な霧の中で酒を飲むというのは」

「五里霧中というやつですか」

「流石に勘が良いね。ここは丁度あの世とこの世の五里境だよ」

「あなたが作った、でしょう」

他愛もない話に他愛もない返し。何を考えるでもなく無駄に過ぎてゆくとも言えるものであった。柁が持ってきた天狗の酒を小町は褒めた。口の中に含むとフワリと香りが広がり濃淡のあ

る味わいが舌の上に流れていく。スバリと打刀のような味わいを好む椀は避けていた類いのものであったが、顔を綻ばせながら目利きの良さを褒められると、少しばかり気恥ずかしく思うのであった。

中有の道で見繕った煮物だの天麩羅だのを頬張りながらぐい呑みを傾ける。交わされる話は多岐に渡った。武芸のこと、是非曲直庁のこと、天狗の世のこと、妖怪のこと。意外ではあったが文芸などにも明るい小町に、それらにさっぱり疎い椀は講義を受ける学徒のようにウンウンと耳を傾けるのであった。

そうしてスツカリと肴を平らげ、酒も半ばを飲み干した頃合いであった。随分と酒がまわってしまったのか身体が熱いと二人はスルスルと着物の帯を緩め、河上に吹く乾いた風を取り込もうと胸口を開ける。誰も見ていないからという心積もりに酒が拍車を掛けてゆき、人前では

決して見せるものではない姿を互いに披露してしまっていた。

椀も小町も、その肌は程良く付いた肉の上にピンと張られ、血色の良い色合いをしていた。身体を動かすことが多いためか、引き締まり無駄のない用の美とでも言うような四肢と、油断を見せる衿の隙間から見える胸元は十二分に豊かなものであった。

酒に酔っているということもあるのだろうが、互いにそのような姿であることなどお構いなしに話に花を咲かせている二人であったが、そこは酒豪で知られる天狗である椀が小町と自分の姿が何とも乱れたものであるということに、ハタと気付いたのである。

意識をしていなければ平気であったが、一度意識してしまうと小町の肌から目を離すことが出来ない。ジロリジロリと舐め回すようにして視線を這わせてしまうのを、どうにか気取られないようにとするのだが、不審な素振りとなっ

てしまう。こんな心持ちなのは酒のせいだと言わんばかりに、酒器を呷る頻度が増えていく。酔い切ってしまったえば、このような事もないのだろうという短絡的な考えであったが、椀のそんな浅知恵は脆くも崩れてしまうのである。

「そんなに急いでどうしたんだい」

そう言いながら、小町はストンと椀の隣に腰を下ろす。ギイと舟が音を立てるが不思議と平穏なままであった。酒が回り熱く感じていた身体が一層の熱を帯びるのを覚えると、ゴクリと生唾を飲み込んでしまう。椀の酒器が空であるのを見て取ると、徳利を傾け並々と注ぐ。こちらも随分と酔いが回ってしまっているのか、手許が狂いぐい呑みの淵から清んだ酒が椀の指へと伝い落ちていく。ああ勿体ないとばかりにグイと椀に覆い被さるようにして身を乗り出しすと、小さな唇を割って出した赤い舌を這わせて舐め取ったのである。下から上へと舐め上げ、そうして次には指の隙間へと割り入れてくる。

生温かく柔らかな小町の舌が指の上を這い回る
感触に柎は酔いしれてしまっていた。

「そんなに焦ることもないじゃないか」

そう耳元で囁いたかと思うと、トンと体を崩
され霧で覆われたままの白い空を仰ぐ格好を取
らされる。これほどに暴れても舟は大丈夫なの
だろうか、そんなことを考えているとスツと
着物の隙間に手が差し入れられる。

「ちよつと」

そんな柎の抵抗の言葉は弱々しい。心底拒む
のであれば、自分の腕を掴むなり暴れるなりし
たであろうが、そのような素振りは微塵にも見
て取れない。きつと今頃この天狗の頭の中は、
このまま流されるか拒むのか、流されるにして
も何をされるのか、拒むにしてもどう拒めばよ
いのか、そんなことをグルグルと考えてしまっ
ているのだろう。生真面目な子だと小町は腹の
底が少し締め付けられるような感覚を覚える。
四六時中、色んなことに考えを巡らせて固執し

たり諦めたり妥協したりしているのだろうと思
うと、随分と可愛らしい白狼天狗だと思えるの
である。

「ここなら大丈夫だよ」

コンと舟が揺れたかと思うと、水面から程よ
く尽きだした奇岩の隙間に舳先が差し込まれ、
小町が手際よく縄を掛ける。鮮やかな手付きで
多少の事では舟が動かぬようにしてしまうと、
身を寄起こしていた柎にグイと蹴り寄ってくる。
トロンと目を蕩けさせ、吐息はどこか甘く感じ
られる。その表情は何とも蠱惑的なもので魅入
ってしまった頃合いであった。下腹部が熱
く、少しばかりの痛みを覚えていたのである。

「ああっしまった」

そう柎が小さく呟くのを小町は聞き逃さず、
顔を近づけてどうしたのかと言わんばかりにそ
の気長の瞳を覗き込んだのである。二人の体は
密着し、着崩れて露わになった素肌が触れ合う
程の距離。そこに至って小町は一つの違和感に

気付いたのであった。

「はにわり、かい」

そう小町に問い掛けられるとコクンと頷く柎。
その顔は朱に染まり恥ずかしい秘密を知られて
しまった子供のようであった。白狼天狗にあつ
てもう一方の性のものを持つ者は珍しいわけ
はなかった。白狼という獣を祖とする天狗であ
るかだとか、強力に優れるためだとか様々な考
えはあるが、そのような者がいることは天狗の
世にあつては普通のことだとされていた。同時
にそれが天狗の中でのみ通じることであつて、
外にあつても同じとは限らないという事も広く
認識されていたことであつた。

「なるほどねえ」

物珍しそうに小町が布の上から陰茎をクイク
イと指で弄ぶ。

「ふあっ」

すると柎はそれに応じるかのようにして吐息
と共に声を漏らす。その姿が何とも楽しく、小

町はこの可愛らしい白狼天狗が人様に見せたことのないであろう様を見てみたいと思うのであった。どうしてやろうかと責め手を緩めずにアレコレ考えてみると、どうしても苛烈な責め苦へと変じてしまう。これも地獄の者の性なのかと苦笑いを浮かべるのであった。

「さ、身体を起こして」

弛緩しきった身体を無理矢理引き越された椀の頭はボウと何かを考えることが出来ないものであった。四肢の自由も思考の舵も、小町の為すがままに任せてしまっていた。そうしていれば一切万事が安穩の内に流れていくような感じを覚えていた。そんなことをウツロウツロと思っていると、背中に柔らかなものを感じる。小町が椀を抱きかかえるようにその後ろに腰を下ろしたのである。少しばかりの力で引かれると、そのまま小町に身体を預ける格好となり背で感じる体温や息遣い、何よりも柔らかなその乳房の感覚に、より一層陰茎を硬くするのである。

後ろから伸ばされた小町の手がシュルシュルと衣を剥いでいく。あつという間に腹より下は丸つきり露わにされ、はにわりの証しである男のものがビンと立ち上がっている様が見て取れる。

「ああっ」

椀がそう頭を振るが小町はお構いなしに、形の良い円錐の乳房と程よく筋の付いた腹へと手を伸ばす。触れるか触れないかという微かな具合で肌の上で指を踊らせ、椀が絶え間なく漏らす声と時折ピクンと跳ねる身体の様子に、何とも言えない心持ちになるのである。

「気をやるなら遠慮はいらないよ」

「ううつ、くう」

一瞬ピンツと椀の身体が浮き上がって硬くなったかと思うと、フツと力が抜け身体が落ちる。深い呼吸と肌の上の汗が椀が気をやったことを如実に示していた。

「良い頃合いだね」

そう呟いた小町が見せたのは一本の箸であつ

た。先程まで小町が使っていた漆塗りのもので、椀が自宅より携えてきたものである。長さは七寸ばかりで何の変哲もないものである。それをポチャンと徳利に入れてクルクルとかき混ぜる。その様は徳利の中をかき混ぜているというよりは、箸の汚れを落とそうとしているようであつた。

「いったい、なにを」

目の前で進む何かしらの準備に戸惑いを隠せずにいると、小町は椀の指に自分のそれを絡めてキュツと力を込め、陰茎に添えるように導くのである。為すがままに自身の陰茎に指を添えると、鈴口からは、透明な汁が零れ落ちていた。小町の様子が何かに耐えろとでも言いたげなもので、腹の底にうすら寒いものを感じ身を固くする。

「そんなに力を入れるんじゃないよ」

「は、はい」

流石にこれは酷い所業かもしれないと心の内

の歯止めが少しばかり掛かるが、一度勢い付いてしまった欲はもう抑えることが出来ない和小町は陰茎の鈴口に箸を付ける。クニユリと柔らかな感触とピクンと跳ねる陰茎。

「やめっ」

「だめだねえ」

何が行われるのか此処に至って察した椛が少しばかり怯えた声をさせて懇願するが、それを小町は一蹴する。この娘がどんな声を上げてどんな顔をするのか。痛みに泣き叫ぶのか、快感に身を震わせるのか、どんな顔であっても誰の前にも見せたことのないものに違いないと、小町の腹の底で熱く滾る流行る心持ちを必死に抑えながら、ゆっくりと箸を鈴口に差し入れてゆく。

「ああっああう」

「息を吐いて力を抜くんだ」

そう良いながら小町は椛の手に絡めていた指を解くと、臍から腹へソウと撫で上げる。力が

込められている筋をやさしく解すように手を当てながら、陰茎の奥へと箸を入れていく。

「あっ、はっ」

「痛いかい」

「ふしぎな、かんじがする」

短く息を吐いてこれまで味わったことのない感覚に身を晒している椛に小町が尋ねると、頭を小さく振ってそう答えるのである。差し入れては引き上げ、引き上げてはまた差し入れと箸を何度も何度も上へ下へと動かすと、その旅に椛は呻き声のようにも嬌声にも聞こえるものを上げて小町の腕の中で身体を震わせるのである。だが、時間と共に椛の声から苦しそうな呻き声は消えていき、艶めかしさだけが残っていく。

そんなことを暫く続けていると、箸の通りは随分と滑らかになり、受け入れていた陰茎も立ち上がる力を失い、へたり込む。鈴口からはまるで手押唧筒が引き上げたかのように白く濁った液体が流れ出ていた。椛の目は虚ろで息も荒

い。酷く疲れたかのように身体を預けていた。そんな椛を眺めながら、箸に纏わり付く濁汁を下で舐め取り、鈴口の周りに残るものはクチュリクチュリとわざとらしく音を立てながら塗り込んでいく。

「あ、またっやあ」

一度気をやってしまった為か、過敏となった陰茎を再び覆う甘い刺激に椛はピクンと身体を跳ねさせて応える。

「やはり、流石の天狗さまと言えど、こういう事には慣れてないんだね」

自分の責め手に面白いように反応を返す椛に意地悪くそのような言葉を掛けてやると、まるで焼き鰻のように顔を真っ赤にして顔を背ける。まさか生娘なのだろうかと思いつながら、陰茎の奥下にある秘部へと指を這わせ、十分に濡れそぼった割れ目へと陥れていく。

「ああっ」

僅かな抵抗すらもなく、小町の指は奥へ奥へ

と進んでいくと、突然に椛が嬌声を上げる。

「そこは、やめて」

小町の腕を掴んでそう言うのであるが、その力は弱いものであった。小町に許しを乞うというよりも、これ以上を受け入れるとどうなってしまうのか、そのことに不安を抱いているようであった。

「椛、あんたの全てを見たいんだよ」

そう囁くと椛の唇を割って指を口内へと突き入れ、舌を抓んだかと思えば引いてみたり。かと思えば齒の付け根をなぞったりと、口許からだらしなく唾液を垂らすほどに蹂躪し尽くすと、唐突に小町は自分の唇を椛の唇に重ねた。指による蹂躪の後に待っていたのは舌によるもので、舌を絡められ唾液を飲まされ、満足に息をする間も与えられずに責め立てられる。

「なんで、わたしを」

目尻に涙を浮かべながら、肩で息をする椛はそう尋ねた。小町の責め手は苦しくもあったが

甘美であった。強く激しくこの身を求められると腹の底に熱いものが溜まっていくのを感じる。

これほど自分の中に支配されることを望む願望があったのかと戸惑うが不快ではなかった。むしろ、より苛烈な責め手をどこか求めている自分が居ることに不思議と合点がゆく程であった。だからこそ何故、小町は自分を選んだのだろうか。それが分からなかった。

だが、小町は何も答えることはなく、再び椛の陰茎へと指を絡めた。まるで折れてしまうのではないかと思えるような指の強さに椛は声を上げそうになるが、それを押し留める。小町がどうやってこの身を責め立てるか、強い期待がそこにはあった。

クチュヌチュと濁汁と唾液が混ざりあって糸を引く音を立てながら、小町の指が陰茎の根元と頭を行き来する。緩急強弱を織り交ぜながら、何度も何度もその指が行き来する様を見ていると、自然と椛の手が自身の乳房へと伸びていく。

押し潰さんばかりの強さで乳頭を摘まみ上げると夢中で弄り始める。

「ああっはあっやだっ」

誰に遠慮するものでもないと箍が外れたのか、その嬌声は大きく響く。息も荒く一際大きく気をやるのが小町にも手に取るように分かる。それならばと、放っていた秘裂に乱暴に指を差し入れると、先程責め立てていた膣奥を目掛けて指を突き動かしていく。

「ああっだめっやだっ、ああああっ」

これまでにないような大きな声を張り上げたかと思うと、陰茎が律動し塊のような白濁の汁を吹き上げ、椛の腹、乳房、そして二人の顔に跡を残す。衰えることを知らずドクンドクンと律動を繰り返す椛の陰茎を優しく撫でながら小町は囁くのであった。

「あんたはね、あの人に良く似てるんだよ」

了

■奥付

東風谷早苗、バイトがんばります!!

原作：上海アリス幻楽団 様

印刷：株式会社ポプルス 様

発行日：2016年5月8日
(第十三回博麗神社例大祭) 初版発行

：2016年7月17日
(東方多宴祭3) 第二版発行

発行元：和がらし屋

たすろ主任(たすろ くずは)

E-mail: tasuro115wagarashiya@yahoo.co.jp

PixivID: 8194034

TwitterID: @tasuro115

柳筥

E-mail: willowbox@outlook.jp

PisivID: 2451448

TwitterID: @jpnmaple

ご意見・ご感想などございましたら、
上記メールアドレス、
もしくはTwitter・Pixiv等をお願いいたします。

本誌の一部また全ての
無断転載・無断使用・無断複製等は禁止します。

和がらし屋

「バイトに命かけてるんで」

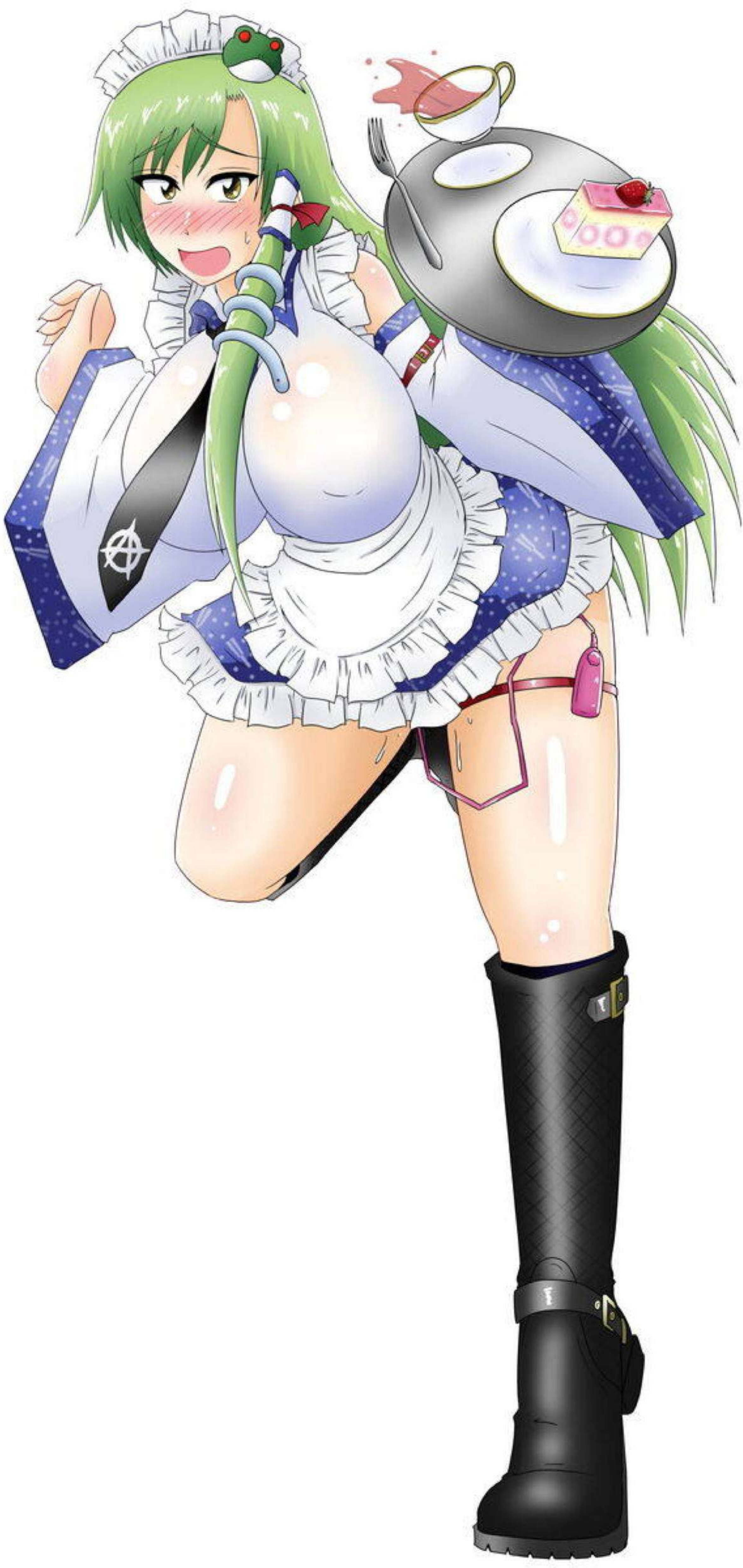


変わったシゴト，変わったジブン

ロータ！

ROTA!

あなたの性癖探しを
サポートする求人情報誌







守矢神社の
ヒミツの奥義 ♡

存分に味わって
くださいね ♡ ♡ ♡

はー♡
はー♡

はー♡

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



あーっ





【A】【P】人里の中心で働く
*①ホール ②キッチンStaff
【A】【P】時給900円～



【職】＜お仕事内容＞

①◆ホールスタッフ◆

お客様のご案内、注文の受付、配膳・片付け、お会計などホール業務全般をお任せします。

②◆キッチンスタッフ◆

厨房での調理補助や簡単な盛付け、食器類の洗浄、食材の管理など簡単なキッチン業務をお任せします。
初めての片でも、先輩スタッフが丁寧にサポートしますのでご安心ください◎

★人里中心部の喫茶店★
好アクセスで通いやすい
15:00～翌1:00の間で
週2日～、1日4H～勤務OK
週末・金土のみ勤務も◎

接客ローター喫茶

和がらし屋

TOHOProject FAN BOOK
＜＜ADULT ONLY＞＞

未経験・学生・フリーター
＜＜大歓迎！！＞＞
WワークもOKです◎

美味しい食事補助、昇給
など嬉しい厚待遇アリ!!

【地】鈴奈庵から徒歩5分☆

【時】15:00～翌1:00の間で

→週2～6日、1日4H～の勤務もOK!

→週末のみ、金土のみの勤務もOK!

【資】◇未経験・学生・フリーターの方大歓迎☆

◇料理未経験の方でもOKです☆

【待】◆頑張りをしっかり評価◎昇給あり☆

◆食事補助あり ◆社員東洋あり

◆制服貸与 ◆深夜手当あり

◆Wワーク・掛け持ちOK

◆研修期間あり(1～3か月/時給800円)

【事】性的サービスをメインとしたお店

【応】「ロータ！を見ました」とTELください◎

週かぬ、媚びぬ、省みぬ

和がらし屋

検索



代表取締役主任

【ご利用にあたって】
当店は「お客様」の満足度を第一に考え、サービスを提供しております。
お客様のご来店には、必ずしも「性的サービス」を提供するものではありません。
お客様のご来店には、必ずしも「性的サービス」を提供するものではありません。
お客様のご来店には、必ずしも「性的サービス」を提供するものではありません。

株式会社和がらし屋ホールディングス

私たちの胸には、黒ダイヤ

和がらし屋

ROTA!

R-18!!!

不定期 土・日 有料発行

ADULT ONLY
成人向版

特集1:はじめてさんも、ベテランも!

派遣SPECIAL

特集2:エリファに注目!

人里の妖怪の山

東風谷早苗、
バイトがんばります!!

R18
ADULT ONLY

ROTA!

東武東上線、ハナハナはりま川駅 ○飛行機日/第13回徳島県沖津大祭日曜日飛行機
乗込付着/2016年5月8日 ○株式会社和歌みんホムサービス「XXIX-XXIX」△県警羽田交通一丁目3番3-4
○求人広告お申込みお問い合わせ「TwitterID:hasuon115」△広告内容についてお問い合わせ「E-mail:hasuon115@separately@yaho.co.jp」
○本誌は読者「マガ」についてのお問い合わせ/随上で両手をおく上げ「ペンナ、ペンナ」大きな声で叫んでください

和がら屋

【A】【P】人里の中心で働く
*①ホール ②キッチンStaff
【A】【P】時給900円～



【職】＜お仕事内容＞

- 1 ◆ホールスタッフ◆
お客様のご案内、注文の受付、配膳・片付け、お会計などホール業務全般をお任せします。
- 2 ◆キッチンスタッフ◆
厨房での調理補助や簡単な盛付け、食器類の洗浄、食材の管理など簡単なキッチン業務をお任せします。
初めての片でも、先輩スタッフが丁寧にサポートしますのでご安心ください◎

★人里中心部の喫茶店★
好アクセスで通いやすい
15:00～翌1:00の間で
週2日～、1日4H～勤務ok
週末・金土のみ勤務も◎

接客口一夕一喫茶

和がら屋

TOHOProject FAN BOOK
 <<ADULT ONLY>>

未経験・学生・フリーター
＜＜大歓迎！！＞＞

WワークもOKです◎

美味しい食事補助、昇給
など嬉しい厚待遇アリ!!

【地】鈴奈庵から徒歩5分☆

【時】15:00～翌1:00の間で

→週2～6日、1日4H～の勤務もOK！
→週末のみ、金土のみの勤務もOK！

【資】◇未経験・学生・フリーターの方大歓迎☆
◇料理未経験の方でもOKです☆

【待】◆頑張りをしっかり評価◎昇給あり☆

- ◆食事補助あり ◆社員東洋あり
◆制服貸与 ◆深夜手当あり
◆Wワーク・掛け持ちOK
◆研修期間あり(1~3か月/時給800円)

【事】性的サービスをメインとしたお店

【応】「ロータ！を見ました」とTELください◎

退かぬ、縮びぬ、省みぬ

🔍 和がらし屋

检索



株式会社和がらし屋ホールディングス

和から屋